

東北大学金属材料研究所

【仙台】集まれ未来の博士たち。東北大学金属材料研究所(鈴木謙爾所長)は二十一、二十二の両日、同研究所の一般公開を行うのに伴い、見学に訪れた小・中学生を対象に、未来博士号を授与する。研究室のスタンプラリーを実施するなど金属材料分野の認識を高め、二十一世紀を担う人材育成につなげる狙い。理系離れが叫ばれる中「今後もしつた取り組みを続けよう」といっている。

21-22日、6年ぶりに一般公開

小・中学生に  
未来博士号

列島ネットワーク(地域ビジネス)

将来を担う人材を育成

研究室スタンプラリーなど実施

東北大学金属材料研究所の一般公開は六年ぶりで、小・中学生を主体とした公開は今回が初めて。これまで毎年秋には、市民向け研究講演会を開いていたが、将来的なモノづくりへの危機感も踏まえ「小・中学生を主体とした一般公開に切り替えた」という。

今回の一般公開は、金研の若手研究者(二十一〜三十代)が中心となり、鈴木所長以下ほぼ全員で取り組む。スタンプラリーに参加する小・中学生には大学院生がガイド役になり、企業などの一般見学者には教授陣などが対応する。

公開される研究室は三十

公開される研究室は三十

一研究室。「アモルファスを作ってみよう」をはじめ「超電導ってなに?」、「原子をみる」など各研究室が工夫を凝らして数十分程の実験・説明を行う。未来博士号を手にするにはスタンブ六個が必要になる予定。最終日には鈴木所長から直接、未来博士号が授与される。

東北大学金属材料研究所は一九一六年(大正五年)の創設。八十年を超える歴史の中で、同研究所はわが国金属材料の中心的存在として輝かしい業績を残してきた。今回の金研の試みは「新たなステップを踏むもの」としている。